

主要事業評価シート(第1次実施計画／H29・30・31年度)

① 基本事項	計画コード		事業名		部名	教育委員会事務局		
	17077		学力向上推進事業		課名	学校教育課 教育支援G		
	施策体系	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			財務科目	会計	01:一般会計
		基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長				款	10:教育費
		施策の方向	03:子どもたちの育ちのための学びの展開				項	08:教育研究費
		戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト				目	01:教育研究費
	事業予定期間		H 27	～	H -	年度	主な根拠法令要綱等	

② 目的・概要	対象	市内小中学校の児童生徒及び教職員			
	目的	児童生徒一人ひとりの「確かな学力」の向上を図るため、「亀山市学校教育ビジョン」「亀山市学力向上推進計画」に基づいた取組を推進する。			
概要	概要	児童生徒の学力の状況や課題を把握し、各種施策により、その向上を図る。研修会を開催することや、先進地視察等により授業改善に努めるとともに、学習環境を充実させるなどして、総合的に学力向上への取組を進める。			

③ 事業の計画・実績	年度計画	平成29年度		平成30年度		平成31年度	
		○レディネステスト(学力テスト)実施と分析 ・小学校3～6年生(2教科) ・中学校1～2年生(5教科) ○補充学習支援教材の活用 ○中学校への運動部支援員の派遣 ○教職員への各種研修会の開催 ○先進地視察による情報収集 ○かめやまっ子チャレンジの実施		○補充学習支援教材の活用 ○中学校への運動部支援員の派遣 ○教職員への各種研修会の開催 ○先進地視察による情報収集 ○かめやまっ子チャレンジの実施		○補充学習支援教材の活用 ○中学校への運動部支援員の派遣 ○教職員への各種研修会の開催 ○先進地視察による情報収集 ○かめやまっ子チャレンジの実施	
		○レディネステスト(学力テスト)実施と分析 ・小学校3～6年生(2教科) ・中学校1～2年生(5教科) ○補充学習支援教材(問題データベース)への各校ログイン回数のべ5887回 ○運動部支援員派遣のべ320回 ○教職員各種研修会4回開催 ○先進地視察による情報収集6か所 ○かめやまっ子チャレンジの実施					
	事業費 計画額	事業費	6,800千円	3,800千円	3,800千円		
		国庫支出金					
		県支出金					
		地方債					
		その他					
	事業費 予算額	事業費	6,728千円	3,662千円			
		国庫支出金					
		県支出金					
		地方債					
		その他	278千円				
	事業費 決算額	事業費	6,450千円	3,662千円	0千円		
		国庫支出金					
		県支出金					
		地方債					
		その他	278千円				
	人件費	事業費	6,450千円	0千円	0千円		
		国庫支出金					
		県支出金					
		地方債					
		その他	278千円				
	総人件費	総人件費	154千円				
		一般職員	154千円				
		所要人員	0.02				
		臨時職員等	0千円				
		総コスト(①+②)	6,882千円				
	受益者負担率		0.0%				

				平成29年度	平成30年度	平成31年度		
④指標	①	名称	全国学力学習状況調査の結果	成果	計画値	94	96	100
			三重県平均正答率を100とした時の割合(各教科全体の平均)		実績値	91		
					単位	%	%	%
	②	名称	授業理解度	成果	計画値	小88中83	小89中84	小90中85
			学校での授業を理解している子どもの割合(学校評価アンケート)		実績値	小88.7中80.3		
					単位	%	%	%
	③	名称	家庭学習の状況	活動	計画値	小55中45	小58中48	小60中50
			家で自分で計画を立てて勉強していると答えた児童生徒の割合		実績値	小62.5中66.8		
					単位	%	%	%

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 - 児童生徒の思考力・判断力・活用力の向上に向けて、学力向上推進計画に基づき、「書く力」を軸にした学力向上の取組を進める。 - 子どもたち自身が主体的に学び合う授業づくりの研修支援を継続する。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 - 教員へのアンケート調査を通して、「書く力」を軸にした学力向上の取組の進捗状況を把握、各校で共有した。 - 教職員を対象とした学力向上研修会の開催や教材の提供等、研修への支援を継続した。

評価		(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 - レディネステストの分析結果から児童生徒の課題を明らかにし、授業改善につなげることができた。 - 各校での問題データベースの活用が進んだ。(ログイン回数 平成28年度3,015回→平成29年度5887回) - 教職員向けの学力向上研修会等を4回実施し、先進地6か所を視察した。 - 中学校への運動部支援員4名をのべ320回派遣できた。 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 - 全国学力学習状況調査の結果は、計画値を下回った。授業理解度は、小学校においては計画値に達しているが、中学校においては、下回った。 - 家で計画を立てて学習を進めている児童生徒の割合は、計画値を上回った。 - 運動部支援員による専門的立場からの指導・助言を受け、教員のスキルが向上し、子どもの運動能力や技能が向上した。 まずまず成果を得た

⑦今後の対応方針	課題	【課題は何か】 ・正答率等、目に見える学力向上においては依然課題が見られる学校がある。 ・めあてとふりかえりの質的向上や授業構成の仕方等、授業改善の継続が必要である。 ・個々の児童生徒の学力の実態に応じた指導が今後も必要である。 ・学習指導要領改訂に伴い、教職員の英語指導力の向上と児童生徒の英語力の向上が望まれる。	今後の方向性	☒ 拡大 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 ・各校における亀山市学力向上推進計画の確実な実践を促し、授業改善の進捗状況を把握する。 ・基礎的基本的な学習内容の定着に向け、個々の児童生徒の学力の実態に応じた丁寧な個別指導を推進する。 ・国や県の学力向上や英語教育推進に係る事業等を活用し、各校の研修や実践を支援する。		【その他の場合、その内容を記載】
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 ・児童生徒一人ひとりの「確かな学力」の向上が期待できる。		
	対応時期			平成30年度

【1次評価者】	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援Gグループリーダー 平野 朋希
【最終評価者】	教育委員会事務局 学校教育課長 西口 昌毅